

経済成長一辺倒が地球を滅ぼす (後編)

農食健研究所
(株)医工学研究所
(株)人間と科学の研究所 所長

飛岡 健

(前号から続く)

4 考えられる物質と

エネルギー消費力の減少策

今まで、人類の人口減少を考える案を論じてきたが、人類自身で、人を直接的に殺して行う事、それは難しい事が判った。そこで次にエネルギーや資源の消費を必要以上しないで、その使用量を減少していく方法を少し大胆に考えて見よう。問題の鍵は「必要以上に」という言葉の内容にある。まさに今日その内容が人によって、国によって、民族によって異なり一致を見ないのだ。しかしここでは大幅にエネルギー、資源の使用量を減らせねばならない事を前提として考えていく。考えられるのは、今のところ、次の案である。既に図1で示したが、再度記す。

4-1 思い切った経済抑制策の実施

4-2 人間の欲求の減少

4-3 地球上での新しい魅力的生活の発見

4-4 更なる科学技術による

救済可能性の追求

4-5 人間自体を小さくして

しま方案(小人国の設計)

4-6 地球からの脱出

4-7 etc.

何よりも財政における、支出と収入のバランスをとるプライマリーバランスと同じく、環境問題に関しても、プライマリーバランスを最初にとる事が喫緊の課題として、2050年までにCO₂排出ゼロとする事が行われている。しかし、これは悪化を止めるフローに対してのミニマムの考えとされているが、既に人類がここ200〜300年の間になしてきた地球生態系へのストックとしての負荷はプライマリーバランスではなく、より抜本的に人類と自然との共生の実行を強く迫っているのである。フローではなく、既にストックの問題に入っているのである。

4-1 思い切った

経済抑制策の実施

実際には難しく、「赤信号」、皆で



経済成長一辺倒が地球を滅ぼす

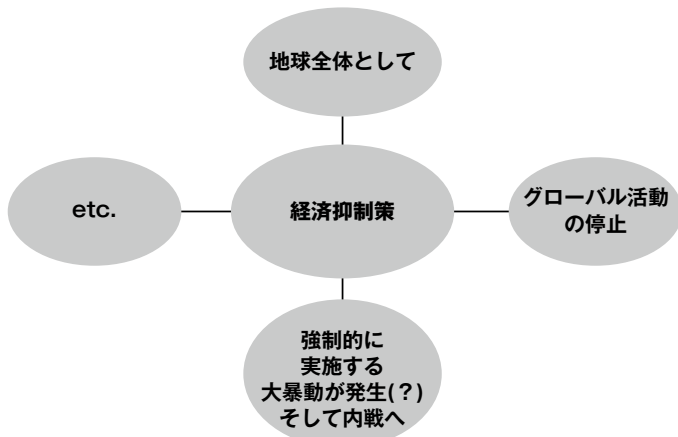


図4 経済抑制策

余裕のある人にとっては、全員が対象である限り、それに従っても、大した影響は無い。ところが1円でも安い品物を求めて必死に買い物をしている人々にとっては死活問題である。

仮に強制力を持たせられれば、地球上の物質消費は著しく減少する事になる筈である。しかし、全体を一律に実施するには、問題がひそんでいる。貧富の差により、その影響は大きく不平等になるからである。生活に必要な衣食住に十分に

余程の意識改革が進まない限り、賛成しないのであろう。元々、金持ち程ケチン坊であり、個人主義なのだ！だから金持ちになる事が出来るのだ。おそらく彼らはその資産を用いて、テスラのイーロンマスクと共に、宇宙への脱出を図るかも知れない。

強制的に農業に従事させるとか、産業廃棄物処理に従事させるとかである。問題は、このレベルの人々が政治的にも実権を持っているので、彼らのみが負担を引き受ける事には、元々、金持ち程ケチン坊であり、個人主義なのだ！だから金持ちになる事が出来るのだ。おそらく彼らはその資産を用いて、テスラのイーロンマスクと共に、宇宙への脱出を図るかも知れない。

何としても本当に必要なモノやケース以外でのエネルギーや資源の消費

このままでは、皆同じになるとの警告を十分に理解させる事が1つの方法であろう。でも実際今の状態では実現不能であろう。前述の如く環境問題は、因果関係の実証が難しいし、人々の生活が直接関わっているからである。しかし繰り返し述べるが、何としても本当に必要なモノやケース以外でのエネルギーや資源の消費

渡つて奈落の底へ」の状況が一部の将来の見える人々には映っているもの、地球上の大多数の人々も組織も、国も赤信号を黄色信号程度しか思っていない人も多いのは現況だ。その結果は「奈落の底」へのシナリオの可能性を増していると言わざるを得ない。これ程強く言っても、この地球人総体は動かないのだ。ジェレミー・レフキン流に言えば、レジリエンスが出来ていないことにな

る。そうした状況の中で、例えば、国連で世界的に物質消費に対し、環境税を消費金額と同じ額を、即ち100%を掛ける政策を決定し、加盟国はもち論、それ以外の国にも実施させ、しない国には、国連軍が強制的に軍事介入を実施させる案が通過したらどうなるであろうか？おそらく一般の方々にとっては、「夢のまた夢」というのが、この案への素直な反応であろう。

何よりも望ましいのは、自らの意志で物質消費を減らす事であるが、何よりも難しい事かも知れない。それが難しいならば、一定の所得以上の人々に、彼らが、消費を控える程の罰則をかけることである。例えば、強制的に農業に従事させるとか、産業廃棄物処理に従事させるとかである。問題は、このレベルの人々が政治的にも実権を持っているので、彼らのみが負担を引き受ける事には、元々、金持ち程ケチン坊であり、個人主義なのだ！だから金持ちになる事が出来るのだ。おそらく彼らはその資産を用いて、テスラのイーロンマスクと共に、宇宙への脱出を図るかも知れない。

ましてや住む事など夢の夢である。閑話休題、話しを元にもどそう。やはり何としても、地球危機を地球の住人達の全員に訴え、何としても物質消費の水準を減少させる事を納得させねばならない。おそらく実際には、地球上のどこかの地域で、環境問題で地域全体が全滅するような、あるいはそれに近い状態が生じた時、それを全世界的に告知して、このままでは、皆同じになるとの警告を十分に理解させる事が1つの方法であろう。でも実際今の状態では実現不能であろう。前述の如く環境問題は、因果関係の実証が難しいし、人々の生活が直接関わっているからである。しかし繰り返し述べるが、何としても本当に必要なモノやケース以外でのエネルギーや資源の消費

は、何としても回避せねばならない時代状況に突入しているのである。

4-2 人間の欲求の減少

人間を人間が自らの手で、直接殺して人口減少を図るのは、望ましくないもので、ここでは全面的に否定している。「次善の策」として、「人間の欲求」を遮断する方策を考えてはどうであろうか？でもそれは実際のところ可能であろうか。

おそらく脳の専門家であれば、生理学的に人間の欲求を司っている脳の部位を判っているので、その部分の機能を減退させるか、その神経系をストップするか、あるいは末端の器官の動きを変えるかすることは出来るであろう。

現状の技術でも、そうした薬品は

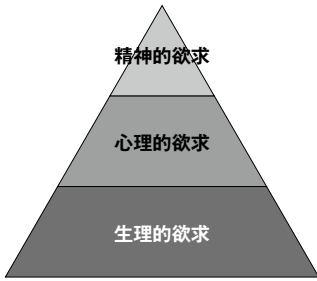


図5 人間の3つの面における物質消費意欲

一部存在しているし、もっと効果的なものを開発する事も出来るであろう。人間の欲求減退は、それ自体で人類の生存の基本的問題となる。それ故、効果が上がるかも知れないという事になるのだが、問題は多い。

あるいは、人間の心の中、感情の中に物質消費に対する忌避の感情が生まれれば良いが、一部の人のみを持ちつつも、大多数の人がそうでなければ余り効果が無い。全員の場合のコントロールは誰しも望まないだろう。

実際に、精神的欲求の中に、物質消費を減らす事への欲求を強める薬を配する事を何らかの作業を通して強め、精神的に物質消費へのニーズを減少せしめる方法もある。人間の精神の中に、物質消費への禁忌感が強まれば、自らを物質多消費の考え方を改め、もう少し、生態系に負荷のかからない生活スタイルを考え出す可能性が高まる可能性がある。

こうした人間の生理 心理 精神の3つの面における、物質消費意欲の減退策は、今日絶対的に必要であるが、行き過ぎると人間の生存能力そのものを減退させてしまい、人類全

体の全滅に繋がりがかねない懸念も他方で生じてしまう。だからこそ効果があるのだとも言えるのだが、やはりそれらは必要最小限に留めておくべきであろう。

かつて日本の物語の中には、お坊さんが蟄居して、出来る限り物質消費をしないで、他の生きモノの生命を奪う事を避け、静かにヒソソリ生活をする光景があった。今こそこの姿を我々は正視せねばならない。また食事の時にも、お椀を食べ終わる前に綺麗にし、例えばお茶と沢庵で残りの汁や、固形物を綺麗に洗い、それを簡単に行えるような食事の作法が行われていた。洗剤や水をほとんど使っていない。

仮にこれだけでも、食器洗い用の洗剤の消費量を大きく減らし、河川の汚染を大きく減少させることが出来るのだ。

特に洗剤のリン(P)の流出は、河川の汚染の大きな原因である。

その意味でひとりひとりが日々の生活の見直しを行い、いかに物質消費のレベルを下げるべく努力すると共に、それを社会全体の活動方針としていくのも、確かに薬物の効能を

用いて、物質消費の欲求を下げる事を考えるのも1つの方法であるが、強制的に物事を押し進めたくないのは誰しも同じだろう。

どうしても、もっと穏やかな教育等で出来ない時には、そうした社会的な強制力を用いざるを得ない状況が、訪れるかも知れない。いや訪れているのだ。何を悠長な事を考えているのだ(天の声)。もち論、そうならないで、人間の理性、知性が自らの意志で、エネルギーや資源の有効な減少策を実行するように働きかけることが望ましいのは言うまでもないのである。問題は、何回も繰り返すが、人間の理性、知性の衰えが、この問題に十分に必要だけ機能していないところが問題であるのだ！

4-3 地球上での新しい

魅力的生活の発見

今日の地球上の人類は、一部を除いて、物質文明に汚染されており、もっと文化を尊重し、資源、エネルギー等の消費を極力抑え、もっと静かに、しかし文化的創造にはもっと



経済成長一辺倒が地球を滅ぼす

熱意を注いで、生活していく事が望まれるし、人類ならば出来る可能性は十分ある筈だ！

フランスのブルゴーニュ地方の主都ディジョンから、車で40分程度走ったところに、ポリーという町があり、そこに14世紀頃に築えたシテイ派の僧院がある。そこでの生活はここでの論考に大きなヒントを与えてくれる。彼らは自給自足の生活を行い、ひたすら神への祈りを生活の中心において生活をしている。ここでは小麦も牛乳も、ブドウも全て自分達で作り、生活しているのだが、毎朝晩何とも美しい神への祈りの歌を大自然の中で神へ届けるべく響かせている。

ここに、これからの地球上の人々が、文明追及の末に、地球を破壊し、棲めなくするのではなく、僅かに与えられた地で、物質的に細々と、しかし精神的には高度の生活を送ると言う1つの手本となる生活を見出せるのである。

あるいは1万年以上も続いた、日本の縄文時代の人々の生活にも、我々の将来の生存の鍵を握る生活の知恵が潜んでいるようだ。

いかに自然の手助けを受けつつも、自然を守り、人間間に争いをもたらさず、かつ豊かな精神生活を送る知恵があったのだ。その知恵を借用し、出来る限り自然と共生する形の生活を今日的に作り上げていく事である。その為に、世界中の人々が、日本の縄文時代に関心を寄せる事が多くなっている。

今日の地球上の文明人としての生活は、ホモファールベルとしての人間の資質が前面に出過ぎてしまっている。もつとホモサピエンスとしての脳の中で自由に羽ばたく事（リベラルアーツ＝教養）に力点をおいて、生活スタイルを求める方向に努力する事が、これからの時代の基本となるべきなのだ！

その為にもまずこれ以上の物質やエネルギーの消費を拡大する文明化の努力は一旦停止し、経済のバイを小さくし、人口を減少していく事が望まれる。そう考えた時、日本の人口減少の状況は、単に危惧すべき状況では無く、むしろ自然の人口減少の中で、ひとりひとりの国民の生活の質を高年齢者の増加する中で、どのように高めていくのか、それを案出

する方向で努力するのも、ある意味で社会先進国の1つの姿と言える。考える事も出来るのである。今までの成長の概念からすると、何とも後ろ向きで寂しい感じを持ってしまわが！

今まで人口減少のデメリットばかり考えてきたが、逆転の発想で、メリットを創造していく努力をするこである。ただ歴史的に今までのような文明化の進展を凶ろうとする、社会は若い方が強みを持つている。それ故、今までの文明化の方向をストップし、新しい地球上での人類の新しい幸せな生活を創造していかねばならないのだ。新しい子供の誕生の数が減少すれば、自ら高齢者比率は特別の操作を加えない限り高まっていくのだ。そうした状況であつても人間が幸せと思つて生きていける英知を見出す事が必要なのである。

4-4 更なる科学技術による救済可能性の追求

今日の地球環境の破壊に対し、仮に科学技術的により対応するにして

も、既に今までの人類活動の結果としての破壊原因（e.g. CO₂の蓄積）を除去せねばならない。その為の第1歩は、これ以上の破壊要因の排出の即時停止であろう。そして今までの環境負荷要因の除去である。しかし今日の世界は、せっかく取り決めたCOPの環境対策でさえ、十分に守れない状況なのである。それから見ても、これ以上の環境汚染の根絶は、基本的に難しい事は今までの既に述べてきた如くである。しかしあえて、ここで何とか科学技術の開発による環境破壊と、そこから生じる被害への対応が出来る方法を考えてだけ考えて見る事にしよう。

何といっても、今までの環境破壊の最大の原因は、食糧とエネルギーの確保の為に田畑の開墾と炭鉱の採掘の開發と、それらの運用である。それに伴う人口増と更なるエネルギーニーズの拡大、その両者の正のスパイラルが今までの人類の歴史であつた。田畑を長年かかって出来た森林を開拓し、地中の石炭、石油、LNG等々を掘り出し、燃焼させ、ダムを造り、原子炉を建設してきた。

いずれにしても環境を乱し、破壊

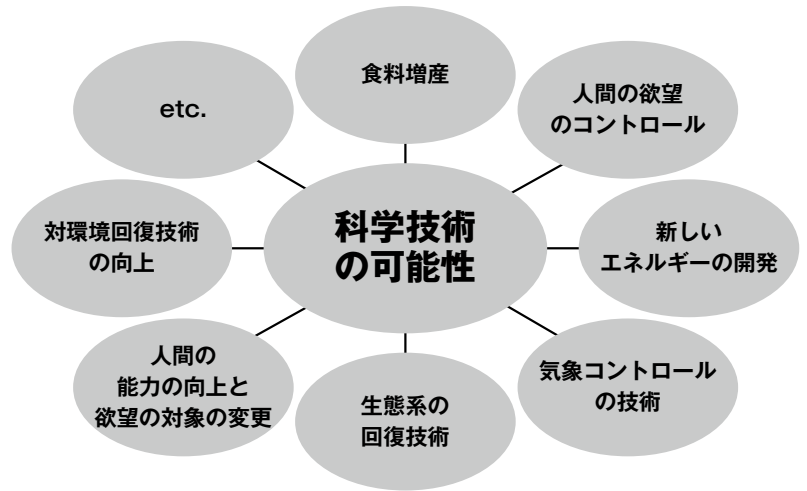


図6 科学技術の可能性

してきた。そして今も続いている。おそらくまだしばらくはこの破壊は続くであろう。それをどのように科学技術の発展により問題解決していくのか？食料増産と新しいエネルギーの開発である。これは今のところ、若干の可能性がある。しかし難しい。

それを考えると、人口抑制方法としての子供誕生を抑制する事が第一である。色々その方法は考えられるが、簡単に出来るのは薬の開発である。これは既に一部出来ている訳である。問題はそれを使うか、使わないかは人間が決める事であり、人権、人倫と絡んでいる。ところで既に先進諸国では、人口減の国々が多い。逆に発展途上国、未開発国では人口爆発が未だ生じている。何よりも、教育水準と人口増加とは逆比例するので、教育水準を上げる事が地球上の人口減の1つの有力な手段である。しかし今のままでは貧困が邪魔をしてく、教育水準を高める事は、従来の対面の紙と鉛筆では難しい。その為に、現在のSNSを始め、C&Cの普及をもっと貧困地域で高める事で

ある。その為には教育用の科学技術の発達、普及が大切になる。そしてそれを活用して教育水準を上げる事である。しかし教育には時間が必要である。教育水準が高まるまでに地球上での人類の生活がどうなるのか判らない。さて少し話を戻そう。今までの環境破壊の最大要因の1つの食料生産の方法であるが、少なくとも現在可能性のある方法は、動物性の食料を植物起源のものに代替える事である。特に家畜の飼育を減少させる事による穀物生産量の大幅の減少である。森林破壊の4つの原因は、①牛、②大豆、③パーム油、④木材である。また家畜のゲップ等によるメタンが人の排出もCO₂以上に問題となるが、それも減少する事になる。そして動物性食物から、植物性食物に変える事によって、食糧事情は大幅に改善する。

全てを養っていきけるであろうとの計算も見られる。但し、農業そのものの環境破壊が農業の更なる拡大により、どの程度のレベルに留まるのかは、あるいは達するのは、詳しい検討が必要である。こうした食内容の変化に際しても、人間の肉を食いたいという欲求をコントロールして、低減させる作業が不可欠である。何らかの形で人間のそうした欲求をコントロールする薬品なり、物質なり、システムを新しく開発せねばならない。「食肉禁止令」によって、人間がその令に従う可能性は破ったら殺人刑にでもすれば、その効果は高い物になるであろうが現実的ではない。

次に環境破壊の結果として生じている異常気象、特に温暖化であるが、これをコントロールする技術があれば、これをコントロールする技術があれば、若干異常気象のもたらす負の効果を一部下げる事になる。しかし、この地球の動きを主として生じている太陽エネルギー、月のエネルギー、そして地球内部のエネルギーと比べて、人間の用いているエネルギーレベルは極めて小さいし僅かである。台風の進路を変えるにしても

実は家畜の肉のみでなく、キノコ類から魚肉に近いモノを作り出す技術も既に一部出来ている。特に中国で盛んである。こうした努力によって、現状レベルの80倍程度であれば、



経済成長一辺倒が地球を滅ぼす

原爆1万発位を用いなければ、その進路は変わらないし、巨大地震を原爆の爆発により生じさせようとしても同様である。

但し、自然の物理の中には特異点や特異現象が存在し、現象の臨界点付近では僅かのエネルギーで状態変化を生じさせることが可能である。

例えば、日本を取り巻く5つのプレートの変動が生じるような状態の時に、その近くで外乱としての原爆をトリガー役としての使用により、大地震と大津波を結果として生ぜしめる事が原理的には可能である。

しかし、プレートの動きの臨界点、そのものを正しく知る事は、今の科学技術では全く難しいであろう。それ故、自然の状態を人工的に操作するのは、実験室や小地域でのケースは別として、原則不可能である。

エネルギーに関しては、今一番可能性があるのは、常温超電導技術の開発である。常温、常圧で物質の電気抵抗がゼロに近づく現象である。これが出来れば、電気抵抗によって発生するジュール熱の発生が無くな

るので、電線内を電気が通過する際に、ロスがなくなる。コイルに巻いても熱により線が溶ける事も無くなるので、強力な磁界を形成出来、発電機やモーターの能力が無限に大きくなり、発電能力も、コイルの巻線に応じて大きくなる。

そして今の送電システムを電線で行っている限り、発生したエネルギーの3分の2位を使用する現場までの間に、ジュール熱や電磁界の発生で失い、約3分の1を利用しているに過ぎない。

と同時に、この電気を用水発電などで、エネルギー変換して保存する事は出来るが、そのまま保存するのは、電池やバッテリーのみであり、容量的に限界がある。ところが電気抵抗がゼロの超電導線でコイルを造ってループにしておけば電池、そのものの役割を果たしてくれる事になる。

更に、電力の消費サイドで用いるモーターや、電熱器等の電気器具の能力も、大幅にアップする。仮に発電、送電、消費の3カ所での能力アップ分を各々3倍として計算すると、 $3 \times 3 \times 3 = 27$ (倍)になる。とい

う事は今の日本の水力発電の7%が27倍になるので、 $7 \times 27 = 189\%$ となる。水力発電のみで、今の全電気の使用量を遙かにオーバーし、お釣りがくることになる。

それに伴い、火力発電、原子力発電・太陽光発電は不必要になり、それに伴って環境汚染も、大半排除する事が出来ることになる。

また今日の生態系の破壊であるが、人間がもつと壊してきた自然に手をかければ、間伐材も処置でき、植林をし、手入れをすれば植林の回復力は、かなりの能力なので復元させられる可能性も持っている。そして、それに伴い生態系を一部回復させる事も出来ていくであろう。

そのように生態系の改善を図れば、CO₂の抑制も改善するし、農業も今よりも良い状態で、有機農法や自然農法を行え、より良いモノを生産し、より人間の健康に寄与する事になるであろう。

さて先ほどの人間の欲望のコントロールに関連するが、人間の活動をもっと地域に限定して生活するスタイルを推進する事によって、即ち古へ回帰する事によって、物の消費を

減少させた形、あるいはもつと循環性を高めた形での生活スタイルに戻るように、今の生活スタイルを変更させるように、人間の意識を地域化していく方法は無いものだろうか。

1つは、社会的に地域間の移動を本当に必要なケース以外禁止の範囲を強める事もあるだろうが、今日の文明の細分化は社会全体の有機性を世界的に高めてしまっているので、そのチェインを切る事は、なかなか難しいものとなっている。しかし昔の王侯貴族のしていた海外旅行を一般人が行っている現実を改善する程度は意図的に出来るであろう。

その実施の為の1つの方策は、実際の空間を移動しなくとも、AIやVRを用い、日々の生活をエンジョイする事である。自分達のコミュニティ、かつての日本の運命共同体としての村落のような地域で、農林水産系を行い、食糧を確保し、あとバーチャル空間の中で情報システムを活用して、仮空想的に生活をエンジョイする生活スタイルである。これならば、自動車も、飛行機も船舶も余り使う必要性がなくなり、使用を減少させる事が出来ることになる。

あるいは逆転の発想になるが、今日の物質、エネルギーの循環システムをもっと活発にすると共に、スピードを上げ、範囲を広げ、そしてロスを少なくし、無駄を発生させないようなシステムを開発していく方法も一つの方法である。

但し、今までの人類の歴史の如く、便利になり、飢えを回避する事によって人口増に繋がるような形にしていくのは避けねばならない。

今日の有機農法も、本来の自然の有機農法を時間的にスピードアップしたものであるが残念ながら、その収量においても、収穫量においても、化学農法に対応し切れていないが、これから様々にその能力を先端科学技術が自然そのものの能力を活用してアップしていく可能性も視野に入っている。

ここで述べたいのは、本来の自然が行っている生命の活動と、そこでエネルギーや資源の活用方法を自然を壊すことなく、どのようにそのスピードを上げて、今日の人々の食糧ニーズ等に応えられるかの問題である。実際には難しいが挑戦すべき課題である。

4-5 人間自体を小さくしてしまおう案(小人の国の設計)

一部の医療者達や研究者達は、ガリバーの話しの如く、人間を相対的に小さくしてしまい、その物質のエネルギー消費を少なくしてしまおうと研究し始めている。これは別に詳しく話そう。

4-6 地球外への脱出

テスラのイーロンマスク等は、この狭い地球から脱出して、他の天体への移住を實行し、地球上での人類の存続の困難へ対応しようとしている。

ひよっとすると「ノアの箱舟」のように、生きた動物や他の生命体を載せて、ノアの洪水から脱出し、他の空間での生存の再開をしようとした如く、地球が洪水のような何らかの災害によって、人類から滅びようとしているので、まさに宇宙船ノアに、多くの遺伝子を乗せて、他の惑星でその再繁殖を考えているのかも知れない。

そうした考えは、かなり現実性を

帯びる物語であり、それを達成する技術はかなりのレベルになってきている。しかし、いずれにしても現在の地球上の人口を、そのまま移す事はもとより、何十万人という移住すら難しいのが、今日の実情である。とすると1つの先駆的な試みとしては良いが、今日の地球での姿を新しい惑星での新しい姿へ移すという話は、まだ夢物語である。

しかし、遠い将来の話になるが、

どこか地球外の高い知的水準の生命体がいて、彼らが地球を訪れ、地球の窮状を救うか、減らしてしまうと言うSFの世界の話しも、全くSFではなくなってきたのが今日の地球社会の姿のようだ。今日、Qアノン達は、宇宙人が地球に来て、D S達の処分を實行し、彼らの搾取した富を地球全体に、B a s i c I n c o m e として再配分して、もつと平和で楽しい場所を築こうとの考えを實行し始めているが、今一つ地球社会の人々の支持を受けているとは言えないようだ。しかし、少なくともその戦略目標と語られているには賛成するが!

4-7 その他 他の銀河系 や宇宙へ

今日、我々の棲む地球は太陽銀河系の1つの惑星であるが、この太陽銀河系と似たような銀河系がこの宇宙(Universe)には、数限りなく存在している可能性があると言います。そして人間よりもっと知能レベルの高い生命体の存在もあり得るかも知れないとの推察もある。

そして更に、このユニバースも1つではなく、他のユニバースが、もつとあるという事が「マルチバース論」として科学的に論じられている。という事は地球が、その生命を終える44億年後の前に、人類が他の銀河系や宇宙へトランスポート出来る可能性が見つかれば、今日の地球上の人類の子孫は将来どこかの地でその生命を継続する事が出来るかも知れない。

人間の脳裏に浮かんだ事は、時間は別として、必ず実現出来るという考え方もある。その意味で創造力喚起の1つの方法として、SF的に未来を検索するのもありだろう。

そうした中で、1つの興味深い考



経済成長一辺倒が地球を滅ぼす

え方が登場している。それは生命の誕生の頃に生じていた細胞が、多くの細胞内小器官（オルガネラ）を、その内部に共生させて、徐々に今の姿になっていった姿をもう一度新たに活用して、人間の細胞に新しい生命体や機械を組み込んで、新たな生命体しようとの計画である。その根拠として人間の遺伝子の中には、植物の葉の機能を有しているものが残っているという。

この新たな生命体Xは、今の人間の細胞に各々の特色のある他の生命体を組み入れ、共生させる事によって、今の人間以上の能力を獲得していく。

例えば植物の機能を有した細胞と人間の現在の細胞とを共生させるのである。そうすると人間は、自ら光合成をおこない、他の生命体を食することなく、独立栄養体として自律的に生存出来るようになる。そうすると農業は要らないことになるし、漁業も要らない。ポイントは100種類の元素を必要栄養源としてどのように体内に吸収するかである。

まさに、そうなると焼畑農業のように、今の火葬場で焼いた灰を利用するのが、一番という事になるので

あろうか？何とも変な気分になってしまおう。

ここではこれ以上触れないが、新たな生命体への変身によって、この狭い地球の中での生存を考えると言う発想は興味深いが、本質的に「人間とは何か」を哲学として答えを新たに答えねばならないであろう。

5 何と言っても、経済拡大

ではなく、縮小を！

果たして縄文時代に戻る

のか？ 新しいまほろばを

今まで、これからの人類の存続に関して考察してきたが、そろそろ纏めに入ろう。

最近日本においては、縄文時代（1万5000年前〜3000年前の1万2000年間）に注目した、新しいまほろば（素晴らしい地）の話がいろいろと登場している。何故であろうか？それは何よりも、1万年以上もの長い期間安定した地域社会での生活が人同志の傷付け合いが少ない状態でおくられてきた事実がベースとしての理解であろう。遺跡から発掘される遺体には傷跡1

つ無いものが殆どである事が判ってきている。

特に、東北のまほろばと司馬遼太郎氏が呼んだりしている丸山遺跡での縄文人の生活は、本当に幸せな生活であったようだ。そして本文中でも述べたフランスのブルゴーニュ地方のシテイ派の僧院での自給自足で、ひたすら神への祈りを捧げる僧侶の生活ともダブリ、それはこれからの人類の生存にとって、1つの参考になるであろう。

いづれにしても、人類の生存の存続の為に、人類の生誕の地であり、棲家であるこの水と緑の惑星地球との共存を図るように、人類の生活を将来に向けて、改善していかねばならない。これ以上のエネルギーと物質の消費拡大は避け、徐々に地球生態系を持つ復旧能力以下の人類の活動にしていく事が必須である。その為には、今日の我々の有する科学技術のレベルでの文明構築にとつて、今の人口は多過ぎる事は明らかであろう。しかし、人間が人間を意図的に殺して、人口減を図る事はやはり望ましくないであろう。そうであるとする、我々は打つ

手が考えつかず、今のまま更に自然生態系を乱暴にも搾取して生活を続け、自然の怒りにどこかで触れ、バベルの塔が破壊された如く、人類の築いた文明の塔は、人類がそのエネルギーを生み出した自然の猛威によって、ジェレミー・リフキン氏が言う「自然の野生化（Rewilding）」によって破壊されていくであろう。

しかし幸いにも、地球のどこかで、その猛威から逃れて、細々と生活を存続出来た人類が居て、時間はかかるが地球の自然が復活して来るにつれ、その少数者達が、再び文明化を進展させることになるというシナリオが一番あり得るもののようにである。まさに『聖書』の壮大なるオデッセイの如くになってしまいうだろう。今のところ、どんなに将来を考える人間がいても、精々その人の人生のスパンは百年程度であり、その先に責任は持てないし、また持つ必然性も無いのであろう。私は本稿で大きな回り道をしていただけなのであろうか？何故なら「人生とは」の答えは未だ誰一人応えられていないのだから。